

Ⅱ. ボランティア調査

新入生のボランティア意識 — 「新入生ボランティア活動アンケート」から

1. 調査の概要と結論

ボランティアセンターは、新入生のボランティアへの意識や活動の意向を知ることがを目的に毎年4月新入生オリエンテーション時にボランティア活動に関するアンケート調査を2001年度から実施しており、2013年度で13回目を迎えた。

2013年度は2,691名の新入生〔女性1,626名（60.4%）、男性1,065名（39.6%）〕から回答を得ることができたが2012年の2,729名より減少した。学科別回答者割合は、法律学科が回答者全体の9.9%（268名）、社会福祉学科9.7%（264名）、経済学科8.7%（236名）国際学科8.5%（231名）と続いた。しかし回答者を見ると大学時代にボランティア活動を希望する学生数は微増した。また関心があるボランティア活動内容は、これまでも関心が高い「国際」「環境」に次いで「子ども」関連の内容が増加した。

その一方で、過去2年間に比べると被災地支援に対する関心も若干低くなった。本学ボランティアセンターはとくに被災地支援の分野でマスコミ等に取り上げられ、かつ国内外の視察や訪問者が絶えない。しかしその魅力は受験生にはなかなか伝わっていないと思われ、受験生の目に触れやすいホームページの充実と、ボランティア活動に機会やきっかけがあれば参加の意思がある入学後の在生学生に向けた広報が望まれよう。

2. 調査結果

(1) 大学入学以前のボランティア活動経験について

大学入学以前のボランティア活動経験について尋ねたところ、経験有るとの回答が43.3%（前年39.8%）で、経験なしの回答は56.6%（前年度60.4%）だった。活動経験者の割合は、2009年から2012年まで減少傾向にあったが、2011年度の43.3%と同程度となった。男女別では参加経験がある女性は46.3%で男性38.7%より多かった。

経験したボランティア活動内容は環境関連が22.4%、社会福祉関連が19.2%、子ども関連19.3%、まちづくり13.9%と続く。男女別では環境関連では男性が27.2%と女性の20.2%より多く、逆に社会福祉20.8%、子ども関連は22.6%と女性が男性より高い割合だった。

(2) 大学時代にボランティア活動に参加したいか

ボランティア活動経験者の増加に比例して、大学時代にボランティア活動に参加希望者も1,943名（71.8%）に増加した。入学前のボランティア経験の有無と大学時代のボランティア希望者の関係を見ると、「参加経験あり+希望あり」学生は934名（34.5%）だが、「参加経験なし+希望あり」学生はそれより多く1,007名（37.2%）である。ボランティア希望理由でもっとも多いのは「新しい出会いや経験をしたい」950名（48.9%）、「ものの見方や考え方を広めたい」907名（46.7%）と自己啓発目的の

動機が多いが、「地域や人のために役立ちたい」727名（37.4%）と続き、他者への貢献目的の動機は東日本大震災2011年度（799名41.7%）以降、2010年度以前より7.8%上昇した。その後2012年は若干低下したものの709名（37.7%）、2013年度割合は低下したが人数は増え727名（37.4%）である。

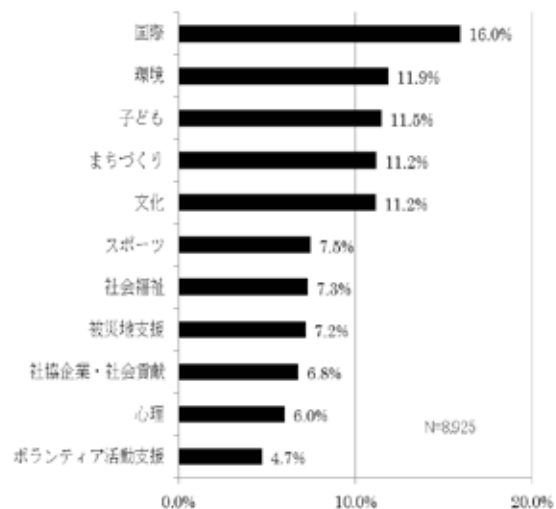
ボランティア活動に参加したくない理由も、「関心がない」は約4割いるものの、「時間がない」253名（33.2%）、「きっかけがない」185名（24.3%）が合計で5割を超えており、ボランティアしやすい環境が整えば参加に抵抗がないと思われる。

（3）明治学院大学のボランティア活動について

入学前に明治学院大学のボランティア活動を「知っていた」との回答者数は1,150名（42.5%）。「知らなかった」との回答は57.5%だった。「知った」のは、「大学のホームページ」67.5%と最も多く、オープンキャンパス23.0%と大きな差があり、ホームページの広報力が高いことがうかがえる。

（4）関心があるボランティア活動について

関心があるボランティア活動分野を複数回答で尋ねたところ、「国際16.0%（前年度19%）」「環境11.9%（前年度14.2%）」「子ども11.8%（前年度13.6%）」「まちづくり11.2%（前年度13.8%）」で、「子ども」と「まちづくり」の割合が逆転した。上位4分野の回答を詳しく見ると、「国際」では「異文化交流（65.8%）」「国際協力（52.5%）」が多く、「環境」は「環境保護（40.5%）」「森林保護（36.5%）」が上位であった。「子ども」は、「保育園・赤ちゃんボランティア（58.0%）」「放課後活動（51.7%）」が多かった。「被災地支援」でもっとも多い活動希望は「子ども支援（57.2%）」だった。被災地支援に関する関心は2012年度、2011年度に比べると低くなっている一方、「子どもの貧困」等子どもの課題への関心が増加傾向にある。



関心があるボランティア活動分野（複数回答）

（5）「1 Day for Others」への参加について

「参加する（5.5%）」、「可能なら参加したい（32.1%）」と参加に好意的な回答者は37.6%、「情報を確認してから参加を考える（46.4%）」で、これを加えると回答者の84%が好意的な回答だった。

（齋藤）